

コロナ禍での緊急事態宣言が解除され1か月過ぎましたがいかがお過ごしでしょうか。皆様方にも当院に早くお集まりいただきご聴聞いただきたいところですが、なかなか難しい現状がございます。残念です。

このような状況の中悩みましたが、今月16日から新たに毎月第三木曜日に「かくれ念仏勉強会」を開催致します(変更あり)。詳しくは裏面をご覧ください。そこで今回はその「かくれ念仏」とは何かを少しご紹介させていただきます。

私の実家があります九州の鹿児島県(旧薩摩藩)では1957(慶長2)年、第17代藩主 島津義弘が正式に浄土真宗を禁止、その後1876(明治9)年「信教自由の令」が公布されるまでの約300年に渡り真宗門徒への過酷な弾圧が行われました。禁止当時は全国各地で農民を中心に、大名や領主など地域の権力者に対し年貢の軽減などを強く訴えるための「一揆」という集団反発行動が起こっており、浄土真宗(当時一向宗)はその一揆の原動力になっていることが多かったそうです。頑強な封建

社会であった薩摩藩は早めの一揆対策として浄土真宗禁止に至った、という理由が発布の大きな原因の一つであります。

勉強会では、他の原因はないのか? なぜ浄土真宗は一揆の原動力になりやすいのか? 禁止令の中での信仰はどのようなものであったのか? などのことを深めてゆこうと思います。この寺報では薩摩藩における浄土真宗禁止の中での信仰とは?ということに少し触れさせていただきます。

禁止の中での信仰は、「かくれ念仏」という言葉が物語っております。寺報68号で「かくれキリシタン」のことを書かせていただきました。実はこのかくれキリシタンの手段とほぼ同じように人々は、少人数で洞窟や船の上などに集まり信仰を守っておりました。浄土真宗の門徒は「講」という集まりをつくります。薩摩ではその講に「仏飯講」「蠟燭興」「椎茸講」などあらゆる名称を付けてたくさんグループに分かれて行きました。江戸時代末期には薩摩の各講の門徒人数を合計すると、14万人以上であったといわれておりま

す。そのグループごとに役人に見つからぬよう密かに洞窟などに集まり正信偈を誦経し、法話を聞き、時には懇志を集め本山に上納していたそうです。まさしく「かくれ念仏」という言葉もその講の活動から来ております。そのあたりも詳しく勉強会で取り上げてゆこうと思います。

禁止という事は違反者は捕らわれます。疑わしき門徒を薩摩の役人は取り調べをどう行ったか? 本願寺鹿児島別院の正門付近に「涙石」という大きな石が奉られております。真宗門徒と疑わしきものを数本の三角の割木に正座させその太もものうえに10キロほどの石を一枚ずつ置いてゆきます。石が10枚ほどになると骨が折れるほどの重さと痛みが襲います。その中で役人たちは門徒であるのか!信仰を捨てる!と迫ります。別院の涙石はその時の門徒のくやしさを、人間の愚かさ、浄土真宗の救いとは何かを教えてくれる尊いものです。

今私が僧侶をさせて頂いているご縁はかくれ念仏とそれを支えたご門徒の信仰とも深く関係しています。

お盆法要のお知らせ

毎年行っておりました合同お盆法要ですが、新型コロナの影響と感染予防を考慮し本年度は中止させていただきます。

各個人様、ご家族様で個別に新盆・お盆法要を承ります。場所はご自宅、妙蓮寺本堂など、日時はお早めにご相談ください。7月、8月どちらでもかまいません。ご縁を大切にいたしましょう。

合掌 釋宗玄

連絡先 090-6340-9040

かくれ念仏勉強会

日時 令和2年7月16日(木) 毎月開催予定
13時30分受付
14時開始
16時終了

場所 タワーホール船堀
江戸川区船堀4-1-1 302会議室
都営新宿線 船堀駅徒歩1分

参加費 一般500円 妙蓮寺クラブ会員無料

お問合せ 090-6340-9040

※ 妙蓮寺クラブについて

会員者数19名、入会金95,000円 協力金50,000円 合計145,000円 (6月30日現在)
ご入会下さった皆様、誠にありがとうございました。
引き続きご入会募集中です。どうぞよろしく願いいたします。

5月6月の妙蓮寺



6月の雨に濡れ、本堂脇の二種の紫陽花が色を楽しませてくれております。左は小さな鉢植えを12年ほど前に購入、右の額紫陽花は実家の父から譲り受けたものです。3回の引っ越しを共にし、今ようやく地植えとなり勢いよく枝を伸ばします。様々な場面を知る物言わないお同行、大切な旧友のような存在です。

※ホームページについて

リニューアル致しました！どうぞこちらもご覧ください。

<https://myourenji.tokyo> または「江戸川区浄土真宗」でご検索下さい。